

ガングコ親父の

今年も裏に住む婆さんからゴーヤーをもらっていたが、そういえばお返しをしておかなかったことを思い出した。松次郎は今朝も挨拶すると「松っちゃん、あんた、いつも元気でいいわね。顔もうなぎの顔みたいに黒くて強そうだし、頭もツルツルで頑丈そう」と、あまり嬉しくない表現で褒められた。えっ、俺の顔はうなぎ、てか？

まあ、いい。暑い夏をこらやうって元気に過ごさせているのは、少しは婆さんからのゴーヤーのお陰があるかもしれないし。「ところでお婆さん、先週は土用丑の日だったけど、うなぎの蒲焼とか食べたかい？」と松次郎は尋ねた。

「そんなものは高いばっかりだし、今さら別に食べんでも良いや」と言っただけ、しかしあの匂いだけは忘れられんね、と本音をポロリ。

松次郎は妻の貴代にそのことをしゃべったら、貴代は亡くなった松次郎の母親のことを話し出した。

「結婚した当時のこと覚えてる？」

お母さんはそんなに好きじゃないからと言っただけ、うなぎの蒲焼の皿を私たちに回してくれたことを。自分にはこれが一番と、いつも食べている魚の煮付けを食べていましたね。

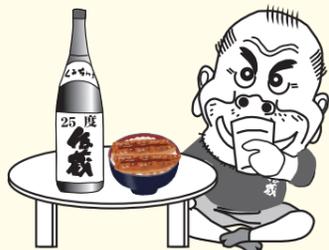
「ただ、本当はお母さんもうなぎの蒲焼が大好きだったんですよ、後でわかったことだけど。いつでしたか、お母さんとうなぎ屋さんの前を通った時、この匂いだけで飯杯二杯は食べられるよ、梅干しでは一杯だけとか、冗談とも本気ともつかないことを言われたの。私にはピーンときたのよ。お母さんも好きじゃないふりをして、そこまですなぎを我慢しなくても良かったのにね」

松次郎は貴代の話に少しばかり考え込んだ。確かに母親の世代は「もったいない」とか、「贅沢すぎる」とか言っていて、我慢することに慣れてきた。経済力をつけた今の人間からすれば、それをナンセンスだと思っただろう。我慢することでするチャンスをみすみす逃してしまっただけで、その方がもったいないではないか、と違った意見も出てきそうだった。

松次郎からうなぎの購入を頼まれた次男の学は、土用の丑の日が終わったばかりなのにと腑に落ちない様子で帰宅した。ひどつは天国のお袋と親父用に、もうひとつは裏の婆さん用にということだ。

「ま、先週食べたからいいや」と学は残念そうだった。せっかくうなぎで一杯やると思った。「しまっちゅ伝蔵」も買って来たのに「えっ、それなら今、匂いだけでも嗅いどけ。それだけで三杯は飲めるぞ、八八八」と松次郎は笑った。そしてうなぎの蒲焼二パックを手にとると、裏の婆さんの家に出かけるために玄関に向かった。

ちょうどその頃、裏の婆さんは仏壇に向かつて手を合わせていた。近所の松次郎さんがうなぎの話をしたから、どうしても食べたくなくて、あなたには申し訳ないけど、買って来たのよ。一人ではもったいないけど、いただきますね。テーブルの上にはうなぎの蒲焼が燦然と輝いていた。25度食べようとした時、玄関の引き戸を開ける音がした。あら、誰かしらね？



奄美黒糖焼酎

伝蔵

でんぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251



喜界町
鹿児島県

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造はこの活動を応援しています。

好評発売中

「もったいない」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。